

平成30年度 第2回秋田県立図書館協議会（要旨）

1 日 時 平成31年3月18日（月）午後1時30分～午後3時30分

2 場 所 秋田県立図書館 3階 多目的ホール

3 出席者

委 員 石沢委員、菊池委員、小林委員、小松田委員、清水委員、
富岡(朝)委員、富岡(美)委員、平川委員、渡部委員

事務局 教育庁生涯学習課 社会教育・読書推進班 成田副主幹
図書館 高橋館長、吉田副館長、京極副館長、工藤総務班長、
中山企画・広報班長、福田図書資料班長、嵯峨情報班長、
菅原サービス班長

4 議事概要

(1) 開会

(2) 委員紹介

(3) 事務局職員紹介

(4) 図書館長あいさつ

(5) 報告

(発言者：■委員 □事務局)

①平成30年度の事業について〔資料により説明：吉田副館長〕

■ セット資料の高齢者向けセットについて、どのような内容のセットなのか。

□ テーマ毎にいろいろな図書を入れているが、大活字本を中心に収集しセット資料としている。

■ 資料受入実績について、購入冊数が減っており、秋田魁新報の記事によると17年度の図書購入費が3,800万円で、都道府県別では34位とのことだが、図書購入費はどのような傾向にあるのか。

□ 開館当時は、5,500万円程度の図書購入費があったが、その後、減少傾向になり、現在は、3,800万円程度になっている。

■ 新OPACについて、検索の際に漢字や仮名などの入力誤りで検索できない場合があるが、検索できるようにできないか。

- 漢字誤り等で検索できない場合があるため、カタカナで検索することにより、誤りを回避することができる。
- 新しいシステムを利用したが、秋田市立中央図書館明德館のように、図書を検索した際に、あらすじ等を表示することはできないか。また、利用履歴から、おすすめ図書を提案できないか。
- 比較的新しい図書以外は、あらすじ等の表示はできない。また、貸出の履歴については、本人以外には知り得ないものであるため、その情報を活用したサービスは提供できない。

②開館時間・休館日について〔資料により説明：吉田副館長〕

- 現在は第1水曜日が休館日で、第3水曜日が資料整理日として休館しているが、利用者の立場からすると、休館日の増加は、サービスの低下であると考え。外部委託するなど民間の力を活用し毎日開館することはできないのか。
- 県立図書館の役割は、全県の図書館等の中央館であり、市町村立図書館等を通して、すべての県民に必要な図書を提供することである。休館日には、その役割を全うするため、市町村立図書館等及び学校図書室への貸出準備を行う。緊急性等を考慮し、利便性が低下しないよう柔軟に対応するなど、サービス低下にならないよう、方法を模索しながら努力していく。都道府県立図書館でカウンター業務に指定管理者制度を導入しているのは、岩手県のみである。
- 平成19年度から月1回の休館としたが、その前後の来館者数の推移はどのようなになっているか。
- 平成19年度当時は1日あたり1,300人程度の入館者があり、開館日の増加に伴い年間入館者数は大幅に増加した。しかし、1日あたりの入館者数は、現在も1,300人弱程度で推移しており、微減に留まっている。
- 図書や施設設備のメンテナンスについて、毎週1回も必要なのか。
- 毎週施設改修は行わないが、施設の点検等も併せて行いたい。
- 市町村や学校支援、図書のメンテナンス等は重要であるため、休館日の増

加については理解できるが、どのような効果を生んだかなど協議会等において報告してほしい。

(6) 協議

(発言者：■委員 □事務局)

①秋田県立図書館の事業について [資料により説明：高橋館長]

■ 秋田県図書館大会について、今年度の6月から11月に変更になったのはなぜか。

□ 例年、6月に開催していたが、来年度は秋田県図書館120周年事業として実施するための変更である。

(7) その他

■ 特別整理期間後、新システムが導入され、レイアウトも変更になり、閲覧室が広く、見やすくなった。

■ 仙北市においても、図書資料が多く整理が行き届いていない。予算確保も難しい状況である。

(8) 閉会